

第4回学術講演会

かわだ りゅうへい

川田龍平氏 講演抄録

平成16年12月15日(水) 2号館 221番教室

「薬害エイズからみた人権・平和」

Human rights peace from the chemical injury AIDS' point of view

松本大学非常勤講師 川田 龍平



H I V感染の告知を受けて……

10歳の時に、母親からH I V感染の告知を受けた。血友病の治療に使われた血液製剤で感染したのだ。自分は長く生きられないのだと思い、エイズを発症したら自殺しようと考えたこともあった。血友病＝エイズという間違った報道もあり、小学6年生のときにいじめを受けた。H I V感染を隠して生きていかなければならなかった。投げやりな中学時代を過ごし、ただ働きたくないから、どうせ死ぬのだからそれまで親に面倒を見てもらえばいい、という気持ちで高校に進学した。

高校時代に転機があった。選択科目を決める段階で将来を考えられるようになった。また、そのころ母親が入院し、「親がいることは当たり前のことではない」ことに気づかされたことがきっかけだった。将来の職業を真剣に考えるとともに、エイズについても学び始めた。

血液製剤によってH I Vに感染した人たちが国と製薬企業の責任を追及する裁判をしていた。私は最初から裁判の原告団に加わらなかった。国を相手にした裁判は最終的には勝てないこと、また何十年もかかるため、健康を第一に考えていた父は裁判に反対していた。しかし、「何をやったって無駄だ」という私の一言を聞いた母が離婚を決意し、私に裁判をすかどうか聞いてきた。私も裁判に対して関心を持ち始めたころだったので、裁判をすることを決めた。両親は離婚し、私は東京H I V訴訟原告団に加わった。

H I V訴訟の裁判が、始まって……

異例の匿名で行われた裁判で学校にも裁判のことは隠していた。裁判所に通ううちに、感染のことを知っても自然と接してくれる環境ができた。自分のことを守ってくれる人たちがいることがわかり、友達に打ち明けられるようになった。最初は、自分がH I Vに感染していることを話すことで、相手に重荷を負わせることになるのでは、という危惧があった。しかし、感染を打ち明けた友人からの、「昨日のおまえと今日のおまえに変わりはない。同情はしない」という言葉に勇気もらった。横浜で行われた国際エイズ会議の時に、隠れずに堂々と生きていきたいと思えるようになった。

実名公表をして……

1995年3月6日の実名公表は、日本社会に予想以上のインパクトを与えた。大学生を中心に若い人たちが「自分たちにできることはないか」と裁判支援に動き出していった。大学の新生歓迎フェスティバルで講演会が企画され、700人の大学生が僕の話聞いてくれた。そこで薬害エイズの悲惨さと官僚の無責任さに気づいてくれた若い人たちは、厚生省に「あやまってよ」と計画した。それが「人間のくさり」であった。

その「人間のくさり」には全国から3500人もの人たちが集まってきた。組織された人たちが動員で集まったのではなく、個人個人の若い人たちが自発的に参加した集会であり、それは画期的なことであった。「人間のくさり」以降、全国各地に運動は広がり、医療機関による不買運動や、厚生省前の原告座り込みに集まった世論は、薬害エイズに対する裁判、社会を大きく動かしていった。

沖縄講演を経て……

沖縄へ講演で初めて訪ねたときに、平和祈念資料館で第2次世界大戦における沖縄戦の真実を知った。沖縄がアメリカによって占領されていく過程や、日本軍によって、あるいは「集団自決」によって、多くの命が奪われたことを知り、戦争の責任が曖昧にされていると感じた。この責任を曖昧にする国の体質こそが「薬害」の問題にも通底するものだと思い至った。裁判のためだけでなく、同じ過ちが今後も繰り返されないためにも、自分自身の体験を伝えていく使命を考えさせられた。

薬害エイズの経験を通して……

単に社会構造の問題だけでなく、命よりもお金や利益が優先される考え方にも、薬害などを引き起こしてきた原因はある。そのような考え方を変えていかない限り、薬害も、戦争も繰り返されていく。薬害エイズの経験を通して見えてきたのは、命や人権、平和が大事にされてこそ、自分の生活や、楽しく生きることができるといことだ。



石井学 学長(左)、友人であり紹介者の林 幸司 講師(右)と談笑する川田氏

■プロフィール

1976年1月12日 東京都小平市生まれ。
東京経済大学卒業
現在：松本大学非常勤講師
東京H I V訴訟原告
人権アクティビストの会 代表
龍平学校-PEEK 主宰
専門：社会活動、生命倫理
主な著書に
『龍平の現在(いま)』
『薬害エイズ原告からの手紙』(共著)など。
1999年5月からは『龍平通信Raum』を刊行。

■HPアドレス

<http://www.kawada.com/>